

令和二年度(第75回)文化庁芸術祭主催公演
 新国立劇場 2020/2021 シーズンオペラ

J.シュトラウスII

こうもり

Die Fledermaus

2020年11月29日(日)~12月6日(日)

会場:新国立劇場オペラパレス 10月25日(日)前売開始



2018年公演より

浮世を笑い飛ばす最高のオペレッタ！2020年の年忘れ、お待ちかねの『こうもり』が登場！

ウズコロナの2020年年末、年の瀬にかかせないオペレッタ『こうもり』が、新しい生活様式に基づき演出の一部を変更の上、オペラパレスへ登場します。

『こうもり』はワルツ王ヨハン・シュトラウスII世が作曲した最高に素敵なオペレッタ。心躍る有名な序曲からシュトラウスの軽快で洒脱な音楽が続き、美しいワルツやポルカにのせてユーモアいっぱいの喜劇が繰り広げられます。アール・デコ調の華やかな美術・衣裳も大きな見どころ。目に耳にウィーン洗練の美と洒落た風刺が続く『こうもり』は、まさに大人のためのエンターテインメントです。

シュトラウスの街ウィーンでは、年末年始の風物詩として『こうもり』が上演されます。2020年の年の瀬は、オペラファンお待ち兼ねの小粋でエレガントなオペレッタで、浮世のあれこれを笑い飛ばし、劇場ならではの豊かなひとときをお過ごしください。

* 新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を講じた新時代の生活様式に基づき、演出の一部を変更して上演します。

<資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

ウィーン気質の洒脱なユーモアあふれる最高のオペレッタ

ワルツ王シュトラウスⅡ世が作曲した、オペレッタの最高傑作『こうもり』。次々に繰り出される美しいワルツやポルカ、小粋で品のある風刺やユーモアが観客の心を高揚させ、大団円を迎える頃には歌と踊りと芝居に劇場中が幸福な空気に包まれる、最高の音楽劇です。華と笑いがいっぱい、ウィーン年末年始の風物詩としてもおなじみです。

『こうもり』が初演された1874年の前年、ウィーンの町はウィーン万国博覧会に沸く一方でコレラの流行と株の大暴落に見舞われ、作曲したシュトラウス本人も株価暴落で痛手を負っていました。『こうもり』には陽気で軽妙な応酬、素朴な愛があふれる一方で、人生の浮き沈みに対するほろ苦い哲学も込められ、その深みが観客の共感呼びます。舞踏会で人々が唱和する「みな兄弟姉妹となろう」という共生のメッセージは、現在の観客の心にもひと際深く染みることでしょう。



ウィーンの香気を伝えるアール・デコ調の華やかな舞台美術・衣裳に注目！



『こうもり』の演出はウィーン宮廷歌手の名テノール、ハインツ・ツェドニク。2006年のこの演出でツェドニクは演出家としてデビュー、この後、翌年のウィーン・フォルクスオーパー『こうもり』などの演出を手がけました。ウィーン出身で『こうもり』の四役をレパートリーとする名テノール歌手ツェドニクはウィーン気質を熟知しており、小粋でエレガント、洒脱な仕掛けがたくさん用意された正統的な演出は、『こうもり』の魅力を余すところなく伝えます。

ツェドニク演出の『こうもり』は、アール・デコ調の華やかな舞台美術・衣裳も大きな見どころ。舞台の縁を飾る市松模様、背景を優雅に彩る植物のモチーフなど、舞台はアール・デコの感覚で統一してデザインされ、照明の効果で刻々と表情を変えます。金色に輝く幾何学模様や、日本の美感を取り入れた優雅で官能的なラインの衣裳など、クリムトを彷彿させるデザインも盛りだくさんで、美術ファンの心も捉えてやみません。

<「こうもり」あらすじ>

【第1幕】アイゼンシュタインは公務執行妨害で刑務所に入らねばならず苛立っているが、収監前の気晴らしにと友人ファルケからオルロフスキー公爵邸の夜会へ誘われる。小間使いアデーレも姉イーダから夜会に誘われ、「重病の叔母を見舞うため休みがほしい」とひと芝居打つ。アイゼンシュタインの妻ロザリンデは夫の不在を寂しがすが、その間に昔の恋人のテノール歌手アルフレードと情事を楽しもうと企む。みな表向き悲しみに暮れているが、本心はウキウキ。夫の外出後ロザリンデがさっそくアルフレードと楽しもうとすると刑務所長フランクが来て、人違いでアルフレードを収監してしまう。



【第2幕】オルロフスキー公爵の夜会。アイゼンシュタインとフランクが鉢合わせし、お互いフランスの貴族だと自己紹介して、しどろもどろのフランス語で意気投合する。アデーレはロシアの女優になりすまして登場。仮面をつけたハンガリーの貴婦人がやってくるが、実はロザリンデ。正体に気づかないアイゼンシュタインは口説こうとするも、口説き道具の懐中時計を彼女に奪われてしまう。シャンパンで乾杯し、宴もたけなわ。朝6時になり、アイゼンシュタインとフランクは大慌てで館をあとにする。

【第3幕】刑務所。夜会の余韻に浸るフランク。アイゼンシュタインが刑務所に行くと、フランクがいてびっくり。お互い正体を明かすが、すでに自分が収監されていると聞き驚くアイゼンシュタイン。そこにロザリンデがやってきた。アイゼンシュタインは妻の不貞を責めるが、彼女は例の懐中時計を差し出す。ここでファルケが、すべては自分が仕組んだ"こうもりの復讐"だったと種明かしし、にぎやかに大団円となる。



<主要キャスト・スタッフプロフィール>**【指揮】クリストファー・フランクリン****Christopher FRANKLIN**

サンフランシスコ生まれ、ベルリン育ち、イタリア在住。トリノ王立歌劇場、フィレンツェ歌劇場、ボローニャ歌劇場、ナポリ・サン・カルロ歌劇場、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場、ローマ歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場、ミラノ・スカラ座、ロッシェーニ・オペラ・フェスティバルなどイタリアの歌劇場や音楽祭で活躍。ファン・ディエゴ・フローレスと長年共演し、ウィーン、ミュンヘン、フランクフルト、パリ、東京などでコンサートを指揮。近年ではミネソタ・オペラで『Doubt』（クオモ作曲）世界初演と『タイス』『椿姫』、トリノ王立歌劇場とキャリアリ歌劇場で『ハムレット』『チェネレントラ』、メキシコ・シティで『ヴェニスに死す』、ギリシャ国立歌劇場『オリー伯爵』、ウィルバート・ロッシェーニフェスティバルで『結婚手形』『新聞』、ナポリとジェノヴァで『メリー・ウイドウ』、パヴィア、クレモナ、コモで『イタリアのトルコ人』、パルセロナでロッシェーニの『オテロ』、トリエステ歌劇場『トリスタンとイゾルデ』、サンフランシスコ・オペラ『トゥーランドット』、ソフィア王妃芸術宮殿『ねじの回転』『ピーター・グライムズ』、テネリフェ・オペラ『清教徒』『ルチア』などを指揮。19/20シーズンはサンフランシスコ・オペラ『ヘンゼルとグレーテル』を指揮した。新国立劇場初登場。

**【演出】ハインツ・ツェドニク****Heinz ZEDNIK**

ウィーン生まれ。1964年グラーツ歌劇場と契約を結び、翌年、ウィーン国立歌劇場に移る。80年には宮廷歌手の称号を授与される。94年ウィーン国立歌劇場の名誉会員となり、97年にはフィデリオ・メダルを授与されている。これまでにパイロイト音楽祭、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場など、世界の主要な歌劇場に出演。オペラとオペレッタのレパートリーは100役を超える。特に『こうもり』に関しては4役をレパートリーにしており、この演目に関してのエキスパートとして知られている。新国立劇場には、2004年『スペインの時』トルケマダ、『サロメ』ヘロデ、『ファルスタッフ』医師カイウスに出演。06年本プロダクションで演出家として世界デビューを果たし、09年、11年、15年、18年に再演、今回が5度目の再演となる。

**【ガブリエル・フォン・アイゼンシュタイン】ダニエル・シュムッツハルト****Daniel SCHMUTZHARD**

オーストリア出身。ウィーン・フォルクスオーパーとフランクフルト歌劇場で専属歌手を務めた。パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、フランクフルト歌劇場、ブレゲンツ音楽祭で『魔笛』パパゲーノに出演。ほかに『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『セビリアの理髪師』フィガロ、『ドン・カルロ』ロドリゴ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『蝶々夫人』シャープレス、『エウゲニ・オネーギン』タイトルロール、『タンホイザー』ヴォルフラム、『死の都』フランクなどのレパートリーを持つ。アン・デア・ウィーン劇場に定期的に客演し、パパゲーノ、アイゼンシュタイン、チャイコフスキー『オルレアン少女』デュノワ、『カプリッチョ』オリヴィエなどに出演。ベルリン州立歌劇場ではヨネライト作曲『メタノイア』に出演した。2017年から19年にはパイロイト音楽祭で『ニュルンベルクのマイスタージンガー』フリッツ・コートナー役に出演。ザルツブルク音楽祭では15年『ウェルテル』アルベールに出演。19/20シーズンはルクセンブルクとパリで『魔弾の射手』オットカール侯爵に出演した。新国立劇場初登場。

**【ロザリンデ】アストリッド・ケスラー****Astrid KESSLER**

オーストリア出身。ソウルで声楽を学びニューヨーク州立大学で舞台のワークショップに参加、ニュルンベルク音楽大学で声楽を学ぶ。ハノーファーやミュンヘン、カイザーслаウテルン、ブレゲンツ、ベルリン、ヴェルツブルクなどでオペラや現代音楽の音楽祭に出演した後、オスナブリュック歌劇場、ウィーン・フォルクスオーパーなどで『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『マリツァ伯爵夫人』などに出演。12/13シーズンからマンハイム歌劇場専属歌手として、『魔笛』パミーナ、『ファルスタッフ』アリーチェ、『トゥーランドット』リュウ、『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、『カルメン』ミカエラ、『道化師』ネッダ、『こうもり』ロザリンデ、『ラ・ボエーム』ミミなど多くの役に出演し、19/20シーズンは『ピーター・グライムズ』エレン・オーフォード、『ばらの騎士』元帥夫人、『Der Ring an einem Abend』ジークリンデに出演、ライブツィヒ歌劇場『アラベッラ』タイトルロール、ケムニッツ歌劇場『ワルキューレ』ジークリンデにも出演した。今シーズンはマンハイム歌劇場『蝶々夫人』タイトルロールに出演している。新国立劇場初登場。

**【フランク】ピョートル・ミチンスキー****Piotr MICINSKI**

ポーランド出身のバスバリトン。最近では、リヨン歌劇場でチャイコフスキー『チャロデイカ』マムイロフ、『ヴィーヴァ・ラ・マンマ』詩人、『ヴェネツィアの一夜』デラックア、ヴィクトル・ウルマン『アトランティスの皇帝』Der Tod、『ランスへの旅』ドン・プロフォンド、『ドン・ジョヴァンニ』マゼット、『GerMANIA』（ラスカトフ作曲）世界初演時のバスバリトン、サンモリッツ歌劇場とバーゼル歌劇場で『ドン・ジョヴァンニ』レポレッロ、『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『新聞』ドン・ボンポーニオ、チャーリヒ・トーンハレでハイドン『薬剤師』センブローニオ、オランダ国立オペラ『A Dog's Heart』（ラスカトフ作曲）プロレタリアと探偵に出演している。現代音楽の熟練した演奏家でもあり、フィリップ・グラス『アクナーテン』、マイケル・ナイマン『The Man Who Mistook His Wife for a Hat』にも出演した。新国立劇場初登場。



【オルロフスキー公爵】アイグル・アクメチーナ**Aigul AKHMETSHINA**

ロシア連邦バシコルトスタン共和国のウファ芸術大学で学ぶ。17/18シーズンから英国ロイヤルオペラのジェット・パーカー・ヤング・アーティスト・プログラムに参加し、『運命の力』プレツィオジツラ、『カルメン』タイトルロールおよびメルセデス、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』ソニエトカなどに出演。18/19シーズンを英国ロイヤルオペラのバリー・コスキー演出『カルメン』タイトルロールで締めくくり、続く19/20シーズンはウェクスフォード・オペラ・フェスティバルに『ドン・キホット』ドゥルシネで、ナポリ・サン・カルロ歌劇場に『スピードの女王』ポリーナでデビューした。20/21シーズンはチューリヒ歌劇場に『セビリアの理髪師』ロジーナでデビューするほか、ベルリン・ドイツ・オペラでも同役に出演予定。新国立劇場初登場。

**【アルフレード】村上公太****MURAKAMI Kota**

東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。新国立劇場オペラ研修所第6期修了。文化庁在外派遣研修員としてイタリア・ボローニャへ留学。ジュゼッペ・ディ・ステファノ国際コンクールにおいて『リゴレット』マントヴァ公爵役を獲得。シンガポール・リリック・オペラにて『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『魔笛』タミーノ、『サロメ』ナラポート、『椿姫』アルフレードに出演し、好評を博す。東京二期会では『マクベス』マルコム、『チャルダースの女王』ボニ、『ダナエの愛』ボルクス、『トリスタンとイゾルデ』メロートで活躍。16年日生劇場『後宮からの逃走』ペドリッコも好演した。新国立劇場では『パルジファル』第1の聖杯騎士、『こうもり』アルフレード、『ばらの騎士』ファーニナル家の執事、『ウェルテル』シュミット、『カルメン』レメンダードに出演、18/19シーズンには『ファルスタッフ』フェントンでリリックな歌唱で喝采を浴びた。『こうもり』アルフレードは過去2回の公演にも出演し高い評価を得た得意役。本年10月には『夏の夜の夢』ライサンダーにも出演。二期会会員。

**【ファルケ博士】ルートヴィヒ・ミッテルハマー****Ludwig MITTELHAMMER**

ドイツのバリトン。幼少の頃よりボーイソプラノとして研鑽を積む。2009年から15年までミュンヘン高等音楽院で学ぶ。14年にヴォルフ国際声楽コンクールで優勝した後、15/16シーズンはフランクフルト歌劇場、16年から18年はニュルンベルク歌劇場と専属契約。レパートリーには、『偽の女庭師』ナルド、『セビリアの理髪師』フィガロ、『メリー・ウイドウ』ダニロ、『ラ・ボエーム』ショナール、『魔笛』パパゲーノ、『こうもり』ファルケ博士などがある。18/19シーズンは、『ナクソス島のアリアドネ』ハルレキンにデビューした。19/20シーズンはミュンヘン・ゲルトナーブラッツ劇場『魔笛』パパゲーノなどに出演している。新国立劇場初登場。

**【アデーレ】マリア・ナザロワ****Maria NAZAROVA**

ウクライナ出身。モスクワのロシア舞台芸術大学、ザルツブルク・モーツァルテウム、ウィーン・コンセルヴァトリウム音楽大学オペラスタジオで学ぶ。リトアニアのヴィリニユス・シティ・オペラ、ウィーン・フォルクスオーパー、ミュンヘン・ゲルトナーブラッツ劇場などに出演。15/16シーズンよりウィーン国立歌劇場専属歌手となり、『フィガロの結婚』バルバリーナでデビュー。同劇場では『仮面舞踏会』オスカル、『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナ、『チェネレントラ』クロリンダ、『ペレアスとメリザンド』イニョルド、『ウェルテル』ソフィー、『夢遊病の女』リーザ、『魔笛』パパゲーナ、『愛の妙薬』アディーナ、『こうもり』アデーレ、『仮面舞踏会』オスカル、『ラ・ボエーム』ムゼッタなど数多くの役に出演している。ウィーン国立歌劇場のほかには、16年、18年のポリショイ劇場『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナ、18年ミラノ・スカラ座『こうもり』アデーレ、ザルツブルク音楽祭『魔笛』パパゲーナに出演している。今シーズン(21年5月)にはパリ・オペラ座へ『スピードの女王』プリレパでデビュー予定。新国立劇場初登場。

**【フロッシュ】ペーター・ゲスナー****Peter GÖSSNER**

ライプツィヒ(旧東ドイツ)出身、うずめ劇場主宰者(2000年岸田國夫『紙風船』で第一回利賀演出家コンクール最優秀演出家賞受賞)、桐朋学園教授、演出家。演出作品には、2010年東京室内歌劇場公演、シューマンのオペラ『ゲノフェーファ』演出(日本初演)などがある。俳優として兵庫県立芸術文化センター『魔弾の射手』で悪魔ザミュエル役に出演している。2021年WOWOWテレビドラマ『川のほとりで』に出演予定。北九州市文化大使。



※フロッシュ役に出演を予定しておりましたクルト・リドルは、入国制限(入国後14日間の待機義務)のためスケジュールが合わず、来日が不可能となりました。代わりに、ペーター・ゲスナーが出演いたします。

新国立劇場 2020/2021 シーズンオペラ
 ヨハン・シュトラウス二世 こうもり
 Johan Strauss II / Die Fledermaus
 全3幕〈ドイツ語上演／日本語及び英語字幕付〉

【公演日程】2020年11月29日(日)14:00／12月1日(土)14:00／3日(木)19:00／5日(土)14:00／6日(日)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:24,200円・A:19,800円・B:13,200円・C:7,700円・D:4,400円・Z:1,650円

【前売開始】2020年10月25日(日)

※チケット発売日は当初発表から変更となりました。

※新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を講じた新時代の生活様式に基づき、演出の一部を変更して上演します。

※フロッシュ役出演を予定しておりましたクルト・リドルは、入国制限(入国後14日間の待機義務)のためスケジュールが合わず、来日が不可能となりました。代わりまして、ペーター・ゲスナーが出演いたします。なお、他の出演者につきましては、当初発表通りの出演を予定しております。変更が生じた際には、最新情報を新国立劇場ウェブサイト等で随時お知らせ致しますので、何卒ご了承ください。

| | | | |
|------------------------|------------------------------|------------------------|---------------------|
| 指揮 | クリストファー・フランクリン | ガブリエル・フォン・アイゼンシュタイン | ダニエル・シュムッツハルト |
| Conductor | Christopher FRANKLIN | Gabriel von Eisenstein | Daniel SCHMUTZHARD |
| 演出 | ハインツ・ツェドニク | ロザリンデ | アストリッド・ケスラー |
| Production | Heinz ZEDNIK | Rosalinde | Astrid KESSLER |
| 美術・衣裳 | オラフ・ツオンベック | フランク | ピョートル・ミチンスキー |
| Set and Costume Design | Olaf ZOMBECK | Frank | Piotr MICINSKI |
| 振付 | マリア・ルイーゼ・ヤスカ | オルロフスキー公爵 | アイグル・アクメチーナ |
| Choreographer | Maria Luise JASKA | Prinz Orlofsky | Aigul AKHMETSHINA |
| 照明 | 立田雄士 | アルフレード | 村上公太 |
| Lighting Design | TATSUTA Yuji | Alfred | MURAKAMI Kota |
| 再演演出 | 澤田康子 | ファルケ博士 | ルートヴィヒ・ミッテルハマー |
| Revival Director | SAWADA Yasuko | Dr. Falke | Ludwig MITTELHAMMER |
| 舞台監督 | 高橋尚史 | アデーレ | マリア・ナザロワ |
| Stage Manager | TAKAHASHI Naohito | Adele | Maria NAZAROVA |
| | | プリント博士 | 大久保光哉 |
| | | Dr. Blind | OKUBO Mitsuya |
| | | フロッシュ | ペーター・ゲスナー |
| | | Frosch | Peter GÖSSNER |
| | | イーダ | 平井香織 |
| | | Ida | HIRAI Kaori |
| 合唱指揮 | 三澤洋史 | | |
| Chorus Master | MISAWA Hirofumi | | |
| 合唱 | 新国立劇場合唱団 | | |
| Chorus | New National Theatre Chorus | | |
| バレエ | 東京シティバレエ団 | | |
| BALLET | TOKYO CITY BALLET | | |
| 管弦楽 | 東京フィルハーモニー交響楽団 | | |
| Orchestra | Tokyo Philharmonic Orchestra | | |
| 芸術監督 | 大野和士 | | |
| Artistic Director | ONO Kazushi | | |

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/diefledermaus/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* 乙席 1,650円:公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

* 新国立劇場における新型コロナウイルス感染症拡大予防への取り組みと主催公演ご来場の皆様へのお願い

https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html

<全国公演情報>

札幌文化芸術劇場 hitaru

2020年12月13日(日)・15日(火)各日14:00開演

本公演は、レパトリー演目です。宣材として過去の上演の舞台写真をご使用いただけます。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



【9】



【10】



【11】

2018年公演より 撮影：寺司正彦